

マスターループリック（項目別評価表）

目指す資質能力

A キャリアプランニング

要素

① 自己分析・変容

客観的に自己を分析し、自己の変容を認識することができる。

評価 Level		CAN DO
9	学校案内を読み込んだり、オープンキャンパスに参加したりして吟味する。	【広げる】
	・学校案内などの資料の取り寄せ ・カリキュラム・取得できる資格・卒業生の進路先などの情報収集	
		8
		他者から助言を受けながら、自らも進路や職業について研究し、自分の進路意識を確立することができる。
7	先生や保護者との話し合いの結果を生かし、自ら進路雑誌、インターネット等を調べ必要な情報を収集する。	【自分のものとする】
	・マナビジョンや夢ナビ等の活用 ・受験科目が対応可能かの検討	
		6
		やりたいことを文系、あるいは理系の領域の中に具体的に見つけ、その進路の実現に向け、準備することができる。
5	担任の先生や保護者の話、LHRなどで得られる情報、大学の先生の講義などで、進路先の情報を幅広く知る。	【実践する】
	・進路に関するLHRや未来DS、三者面談の活用	
		4
		自分のやりたいことが文系的なのか、理系的なのかを知ることができる。
3	自分が何を面白く感じているのか、意識する。	【気づく、選択する】
	・得意な教科に関連する分野からの発想 ・新聞や本を読んだりニュースを見たりしてさまざまな情報に触れる。	
		2
		何かに興味を持ったり、何かをすることに面白さを感じたりすることができる。
1	日々の授業や行事・部活動で学ぶことを大切に する。	【知る】
	・授業や行事・部活動への前向きで、真剣な取組 ・学んだことの記録	

要素

② 社会（大学）分析

社会や進路（進学・就職の分野）の情報を積極的に調べ、的確に分析することができる。

評価 Level		CAN DO
9	進路実現のためにはどこまで伸ばす必要があるのかを把握し、計画的に確実に力をつけるとともに、実現の可能性について保護者と共通理解を図る。	【広げる】
	・模試の結果の細かな分析、志望校の過去問による実力把握、受験までの学習計画の立案 ・経済的な面も含めての保護者との話し合い	
		8
		進路を具体的な大学（専門学校）・学部への進学や特定の職業への就職と見定め実現のためのプランを考えることができる。
7	模試の成績表などで志望校に合格するにはどれぐらいの成績が必要かを把握し、必要な力をつけるためにどうすればよいか試行錯誤する。	【自分のものとする】
	・マナビジョンや模試の成績表による実力の把握 ・いつまでに、何を、どうやるか、具体的な計画と実行	
		6
		社会や進路（進学・就職の分野）の情報を積極的に調べ、実現するための方法を知ることができる。
5	興味を持った職業が具体的にどのような仕事なのか、それにはどのような進路先を選べばよいのか調べる。	【実践する】
	・図書館やインターネットでの仕事内容の調査 ・図書館やインターネットでの学部・学科の調査	
		4
		社会や進路（進学・就職の分野）の情報を調べ、取捨選択しながら記録することができる。
3	自分が興味を持った事柄について、自分なりに調べる。	【気づく、選択する】
	・保護者・先生・知人などへの相談 ・読書やインターネット検索による情報収集	
		2
		自分の興味や関心が社会のどのような分野に向いているか、知ることができる。
1	日頃から社会の動きに関心を持つ。	【知る】
	・新聞・テレビ・インターネットを活用したニュースの視聴	

要素

③ 社会への貢献

社会に貢献する観点で、自身の生き方を考えることができる。

評価 Level		CAN DO
9	たとえば「持続可能な新素材の開発をして環境問題の解決に貢献したい」など、自分のキャリアを具体的に考える。	【広げる】
	・課題研究の成果をまとめながら、大学でどのような研究に取り組みたいのかを考える。	
		8
		自分が志す職種で、どこで、どのように働いて社会に貢献するのか、具体的なイメージを持つことができる。
7	目指す職種を決める。	【自分のものとする】
	・入学体験会や看護体験、公開講義、講演会などへの参加 ・課題研究を進める中で考える。	
		6
		興味関心を持った職業が一般的にどのように社会に貢献しているのかを説明することができる。
5	科学技術や医療、行政や教育など、どういった分野での貢献が自分に合っているのか考える。	【実践する】
	・未来DSや崎陽塾などの講座・講演会の活用 ・課題研究の検証を進める中で考える。	
		4
		自分が考える社会貢献について、実現できそうな職業を調べることができる。
3	ものを作りたい、命を助けたい、地域を活性化したい、など自分がやりたいことの方向性を持つ。	【気づく、選択する】
	・課題研究の問いを立てる中で考える。	
		2
		どのようなことで社会に貢献したいのか、自分なりに考えを持つことができる。
1	社会に貢献するとはどういうことは、自分なりに考える。	【知る】
	・SDGsの理解？	

B

学びに向かう姿勢

要素	
①	学ぶ意義 学校内外のさまざまな学びの機会をととして、自己の成長のための学びの意義を理解できる。
評価 Level	CAN DO
10	学びの意義をしっかりと意識し、それをもとに実践した学びを学校内外の機会に発信することができる。
9	それぞれの活動において、自分の実践について他者に発信する。 【広げる】
	・校内発表会での発表 ・各種大会、発表会への申込および参加
8	自分の将来と学びの意義を関連づけ、積極的に学校内外の機会をとらえ学びを実践することができる。
7	それぞれの活動において、自分の行動を振り返り、具体的な行動の改善を行う 【自分のものとする】
	・活動記録の記入 ・アンケートへの回答 ・活動や課題研究の内容変更
6	自分の成長を目指す学びの意義を意識しながら、継続的に学び続けることができる。
5	それぞれの活動において、自分の成長に必要な学びを選択し、その獲得のために具体的に行動する。 【実践する】
	・調べ学習、実験、検証、質問、対話など
4	学びの意義を自分なりに言葉にすることができる。
3	それぞれの活動において、自分の成長に必要な学びが何であるかに気づく。 【気づく、選択する】
	・活動に必要な考え方について、自分に不足しているものの自覚
2	自分の成長のために、学ぶことが必要であると理解できる。
1	それぞれの活動に参加し、その活動の目的について説明を聞く。 【知る】
	・活動の目的についての理解

要素	
②	学びの技法 学びを深めるためのさまざまな技法を活用し、自己の研鑽につなげることができる。
評価 Level	CAN DO
10	身につけた学びの技法を他者と共有し、ともに研鑽に励むことができる。
9	それぞれの活動において、身につけた学びの技法を他者に伝達する。 【広げる】
8	身につけた学びの技法を活用して、自分の興味のある学問について学びを深めることができる。
7	それぞれの活動において、身につけた学びの技法を工夫し、実践の改善を行う。 【自分のものとする】
6	身につけた学びの技法を活用して、自分なりに学びを進めることができる。
5	それぞれの活動において、学びの技法を取り入れて具体的に実践する 【実践する】
4	学びに必要なさまざまな技法を身につけようと努力することができる。
3	それぞれの活動において、学びの技法の習得方法を学ぶ。 【気づく、選択する】
	・活動に必要な
2	学びにはさまざまな技法があることを理解することができる。
1	それぞれの活動に参加し、学びの技法についての説明を聞く。 【知る】
	・活動の方法についての理解

要素	
③	学びの習慣 自己の成長、研鑽のために意欲的に学びを継続することができる。
評価 Level	CAN DO
10	自らの学びの習慣を他者に伝えることで、他者とともに学びを充実させていくことができる。
9	それぞれの活動の中で、習慣化した自分の学びについて他者に発信する 【広げる】
8	学びを習慣化したことでどのような成果が上がっているかを説明することができる。
7	それぞれの活動に加えて、日常生活の中に学びを継続して取り入れる。 【自分のものとする】
6	日常生活の中で、意識して学びを習慣としていることを実感できる。
5	それぞれの活動に加えて、学びを日常生活の中に具体的に取り入れる。 【実践する】
4	自らの学びが習慣になるつつあることを実感することができる。
3	それぞれの活動において、具体的な学びを定期的に繰り返す。 【気づく、選択する】
2	学びを習慣化する必要性を理解できる。
1	それぞれの活動に参加し、学びの習慣化の必要性について説明を聞く。 【知る】

マスターループリック（項目別評価表）

目指す資質能力

自己管理能力

要素

①自己研鑽

学校内外の学びの機会を積極的に活用し、自己の研鑽につなげることができる。

評価 Level		CAN DO	
9	自らの実践を振り返り、PDCAサイクルを回すことでできるようになり、そのノウハウを表現しようとし、他者に伝えようとする。	【広げる】 学校内外の機会を活用し、自己の研鑽の成果を発信し、受けた刺激をもとにさらなる研鑽へとつなげることができる。	
	発表等での質疑応答や助言から、さらに研鑽を深化させようと、新たな手法や考え、計画を導き出そうとする。		
		8	学校内外の機会を積極的に活用して学んだことを、自己の研鑽につなげることができる。
7	実践を継続的に取り組み、一定の成果を上げるためには、どのような取り組みが必要か、再度計画を見直す。	【自分のものとする】 自己研鑽を継続的に実践し、その内容を成果物にまとめる、または発表する。	
	自己研鑽を継続的に実践し、その内容を成果物にまとめる、または発表する。		
		6	自分の将来を見据え、自己の研鑽を継続的に実践できる。
5	自らの成長を意識し、自己研鑽の内容を具体的に把握したうえで、計画的に実践しようとする。	【実践する】 自らの成長を意識し、自己研鑽の内容を具体的に把握し、継続的に実践しようとする	
	自らの成長を意識し、自己研鑽の内容を具体的に把握し、継続的に実践しようとする		
		4	自分にとっての研鑽の内容を具体的に把握することができる。
3	南高で設定された活動の目的を確認したうえで、自らの成長を関係する内容がないか意識して再度、確認する。	【気づく、選択する】 自分の成長、研鑽に関して、どのようなツールなどがあるのか知り、選択できるようにする。	
	自分の成長、研鑽に関して、どのようなツールなどがあるのか知り、選択できるようにする。		
		2	研鑽を積むことが自分の成長に繋がることを理解できる。
1	自分の成長に繋がることは何か考え、南高で設定された活動の目的を確認する。	【知る】 自分の成長に繋がるものが何か考えようとする。	
	自分の成長に繋がるものが何か考えようとする。		

要素

②

主体的判断

さまざまな場面において、多くの情報収集に努め、主体的に判断を下すことができる。

評価 Level		CAN DO
	10	収集した多くの情報をもとに総合的に考え主体的に判断した内容を、根拠を示しながら他者に伝えることができる。
9	TO DO 根拠を持って主体的に判断した内容を的確に他者に伝えようとするために、多くの情報を多角的、多面的に考えようとする。	【広げる】
	多くの情報から多角的、多面的に考えることで、根拠を持って主体的に判断した内容を的確に他者に伝えようと	
	8	自ら動くことで多くの情報を収集し、総合的に考え、根拠を持って主体的に判断することができる。
7	自分の考えの根拠となる情報を、自ら行動することで収集し、分析することで主体的に判断する	【自分のものとする】
	主体的に判断するための情報を自ら行動することで収集し、分析をすることで根拠を持たせようとする	
	6	情報の収集に努め、それらを考え合わせながら主体的に判断しようとすることができる。
5	自分の考えを持つ際に根拠となる複数の情報をもとに考え、主体的に判断する	【実践する】
	自分なりの考えだけにとどまらず、複数の情報を合わせ、主体的に判断しようとする	
	4	主体的に判断することが求められる場面で、自分なりに考えて判断しようとすることができる。
3	自分の考えを持つ際に根拠となる情報をもとに考え、主体的に判断する	【気づく、選択する】
	情報をもとに自分なりの考えをもとに、主体的に判断しようとする。	
	2	さまざまな物事において、主体的に判断することの大切さを理解できる。
1	主体的に判断するとはどのようなことなのか考え、そのための情報とは何か知ることができる。	【知る】
	主体的に判断するための情報を知る。	

要素

③

タイムマネジメント

物事をやり遂げる際に、自律して時間を管理し、終結させることができる。

評価 Level		CAN DO
	TO DO	10 チーム(集団)でやり遂げるべきことを、自分たちで話し合い時間の管理を行いながら、終結させることができる。
9	活動の目的を達成するために、チーム(集団)における長期間の時間管理を計画する。また、計画を実行する際の注意点などをチームで確 自律的な時間管理を行うことができ、さらにチーム(集団)における計画的な時間管理を計画する。	【広げる】
		8 日常生活の中で時間の管理を自律して行い、やり遂げるべきことを終結することが習慣化している。
7	南高で設定されたそれぞれの活動の目的を達成するために、長期間の時間管理を計画し、時間管理を習慣化する。 物事を達成するまでの、計画的な時間の使い方を考えるとともに、長期にわたる時間管理を計画する。	【自分のものとする】
		6 物事をやり遂げようとする際に、自分で時間を使い方を決め、それを実践してやり遂げることがおおよそできる。
5	南高で設定されたそれぞれの活動の目的またはその目的を達成のための小さな目標を達成するために、中期間の時間管理を計画する。 物事を達成するまでの、計画的な時間の使い方を考えるとともに、中期的な時間管理を計画する。	【実践する】
		4 物事をやり遂げようとする際に、それまでの時間の使い方をだいたい見通すことができる。
3	南高で設定されたそれぞれの活動の目的またはその目的を達成のための小さな目標を達成するために、短期間の時間管理を計画する。 物事を達成するまでの、計画的な時間の使い方を考え、短期的な時間管理を計画する。	【気づく、選択する】
		2 物事をやり遂げるには、時間の管理が必要なことを理解できる。
1	時間管理を行う意味を考え、どのような力が必要か確認する。 物事を達成するまでの、短い時間管理を計画する。	【知る】

マスターループリック（項目別評価表）

目指す資質能力

D

課題対応力

要素

①

テーマ設定

自然や社会のさまざまな課題に気づき、関心を向けることができる。

評価 Level	Level	CAN DO	
		10	課題設定や研究内容についての、共感・共有性がある。
9	TO DO		【広げる】
	先端的／現代的な課題意識をもってテーマ設定をする。 文献や資料を精力的に調べ広範囲な情報を得る。 専門家の助言を踏まえた、広範囲にわたる文献や資料調査と、情報の獲得		
8			【自分のものとする】
	研究のゴールを見据えての、検証計画の立案ができる。		
7	学術的・社会的な課題意識をもとにテーマを考案する。 文献や資料を精力的に調べる。 精力的な文献や資料調査と理解 外部専門家による助言		【実践する】
6			【気づく、選択する】
	様々な情報源による先行研究調査を参考にしながら、仮説検証の研究計画を立てることができる。		
5	学術的・社会的な課題意識をもとにテーマを考えようとする。 文献や学術論文サイト、インタビュー等、情報検索範囲の拡大 専門知識に関わる情報収集		【知る】
4			
	検証可能で研究に値する仮説を設定でき、関連のある先行研究を調査できる。		
3	自己の経験による発想からテーマ設定を発案する。 先行研究調べ 簡単に答えが分からない問いの立案		
2			
	課題発見の意味を理解し、問いを立てることができる。		
1	何らかの自然や社会の課題を思い浮かべることができる。 インターネットで検索		

要素

②

研究手法の獲得

さまざまな科学的検証の方法を理解し、適切な手法を用いて課題の解決を目指すことができる。

評価 Level	評価 Level	
	CAN DO	
10	表現、デザイン性に優れている。 内容に説得力がある。 内容の共感・共有性がある。	
	TO DO	
9	データ収集、分析、原稿作成などの実施時期や方法 を進んで担当教員に相談・報告し、研究を主体的に 進捗させる。	【広げる】
	緻密で豊かな発想に富んだ研究方法の考案と 実践 専門的な助言による研究方法の改善	
8	検証結果をもとにした深い考察がなされて いる。次の課題設定と新たな検証を模索 できる	【自分のものとする】
	研究目的を達成するのに、現実性のある研究 方法を具体的に考えたり、修正したりする。	
7	現実性のある研究方法の具体的な考案と実践 外部専門家による助言	【実践する】
	PCや専門機器の操作法や、統計学の知 識を身につけ、それらを活用して科学的な 検証方法を考えることができる。	
6	データ収集、分析、原稿作成などの実施時期 や方法を担当教員に相談・報告し、計画どおり に進める。	【気づく、選択する】
	計画的かつ具体的な研究の実行	
5	仮説検証に沿った、適切な実験・調査の 実行ができる。	【知る】
	データ収集、分析、原稿作成などの実施時期 や方法を、班員及び担当教員と議論し、立案 する。	
4	研究目的に照らした研究方法の検討 方法の実行可能性の検討	【知る】
	リサーチクエスションと仮説を立てることが できる。	
3	研究方法を自分で考えようとする。	【知る】
	実験や調査期間を踏まえた計画性 タイムマネジメント	
2		【知る】
1		【知る】

要素

③

創意工夫

検証方法の検討と実践や他者への伝達において、自分なりのさまざまな創意工夫ができる。

評価 Level		CAN DO
10		研究の展開の可能性が感じられる 他の事例への応用ができる。 外部コンテスト等への参加をする。
TO DO		【広げる】
9	より専門的な知識の獲得に向けて、専門機関 や教師と協働する。 研究室、専門機関への支援要請 オンライン会議の活用 専門書を読む	
		【自分のものとする】
8	的確なデータの比較、比較対象設定がで きる。適切な対照実験設定ができる。	
7	様々な文献や研究論文を調べる 的確で正確な情報検索と収集 公的な統計データ等の活用	【実践する】
6	先行研究を参考にした新たな発想がで きる。専門機器、専門的資料の効果的な活 用ができる。	
5	各々の役割を十分果たす。 建設的な意見を交わす。 お互いがグループ研究に貢献する。 場面に応じたリーダーシップの発揮 場面に応じたフォロワーシップの発揮	【気づく、選択する】
4	類似する他の事項との関連づけができる。	
3	班内で主体的な議論をする。 研究のゴールを共有する。 SDGsとの関連性の発想	【知る】
2	探究の意欲をもっている。 事象に対する多様な観察眼がある。	
1	班内で意見を出す 自分の意見の主張 他者の意見の傾聴	

マスターループリック（項目別評価表）

目指す資質能力

E

自己有能感

要素

①

成功体験

さまざまな行事や事業をやり遂げるにより、自己肯定感を高めることができる。

評価 Level	TO DO	評価 Level	CAN DO
		10	やってみたいことをやり遂げた達成感を味わい、ほかのことにもっと挑戦することができる。
9	PDCAサイクルを長期的に継続してまわすことができる、またそれを発信できる		【広げる】
8		8	ひとつでも自分がやってみたいことに挑戦し、やり遂げた達成感を味わうことができる。
7	長期の目標を立て、継続した努力を重ねるための計画を立てる。		【自分のものとする】
6		6	自分がやってみたいと思うことに挑戦し、手応えを感じることができる。
5	目標を立て、目標達成のために何が必要なのか考える。		【実践する】
4		4	自分がやってみたいと思うことでできていなかったことをできるようになりたいと考えることができる。
3	それぞれの活動の目的から、自分に関連した目標を立てる。		【気づく、選択する】
2		2	自分のできていることやできていないことを理解することができる。
1	自分のことを振り返り、好きなこと・得意なこと、嫌いなこと・苦手なことを把握する。		【知る】

要素

②

ストレスマネジメント

さまざまな困難にぶつかった際、自身が感じるストレスをうまくコントロール、軽減できる。

評価 Level		CAN DO
10	自分の経験を生かして、ストレスマネジメントを他者に伝えようとする。	ストレスを抱えている友人などに対し、自分の過去の経験を生かしてその軽減を手助けすることができる。
9	自分の経験を生かして、ストレスマネジメントを他者に伝えようとする。	【広げる】
8		うまくいかないことがあった時、ストレスへの向き合い方を自分なりに持つことができる。
7	自分のストレスを軽減しようと工夫することを何度も経験して、ストレスとの向き合い方を自分なりに考える。	【自分のものとする】
6		うまくいかないことがあった時、自分のストレスを軽減しようと工夫することができる。
5	自分がストレスを抱えていることを客観的に意識し、軽減する方法を考える。	【実践する】
4		うまくいかないことがあった時、自分がストレスを抱えていると客観的に意識することができる。
3	どうしてストレスを感じているのか、どのようなときにストレスを感じるのか考える。	【気づく、選択する】
2		うまくいかないことがあった時、自分がストレスを抱えていると何となく感じるができる。
1	うまくいった時、うまくいかなかった時とはどのような時か考える。また、自分がどう感じるか考える。	【知る】

要素

③

人生哲学

人生や、自身のあり方について自分なりの価値観を持つことができる。

評価 Level		CAN DO
	10	これだけは大切にしていきたいという価値観に基づた進路を選択したことを他者に伝えることができる。
TO DO		【広げる】
9	どのような理由で自分の進路の選択をしたのか、価値観や将来のビジョンを明確にして他者に伝えようとする。	
	8	これだけは大切にしていきたいという価値観に基づた進路選択を行うことができる。
7	自分の人生において、大切にしていきたい価値観を明確にもち、自分の進路の選択をする。	【自分のものとする】
	6	人生において、これだけは大切にしていきたいという価値観に基づき、自分の進路を考えることができる。
5	自分の人生において、大切にしていきたい価値観をもち、自分の進路との関連を考える。	【実践する】
	4	人生において、これだけは大切にしていきたいという価値観をひとつでも持つことができる。
3	自分の人生において大切なもの・大切な事を考える。	【気づく、選択する】
	2	人生をどのように生きるか、漠然と考えることができる。
1	自分の人生を振り返ったり、将来について漠然と考える、または考えたことがある。	【知る】

マスターループリック（項目別評価表）

目指す資質能力

F品性ある行動

要素

①

生命尊重

自己や他者に対して、生命を尊重する態度で接することができる。

評価 Level		CAN DO
9		あらゆる生命の尊厳を理解し、持続可能な社会の実現に向けて価値ある行動を他者へと広げていくことができる。 【広げる】
7		さまざまな生命を尊重する意識を発展させ、自然を大切にするとともに環境の保全に努めることができる。 【自分のものとする】
5		他者の痛みや苦しみに思いを寄せ、その解消に向けて自分に何ができるかを考えることができる。 【実践する】
3		自他の生命を尊重する意識を持ち、共感的な態度で他者と接することができる。 【気づく、選択する】
1		自分や周囲の人たちの生命の大切さを理解できる。 【知る】

要素

②

多様性尊重

他者の考えや価値観の違いを理解し、多様性を尊重することができる。

評価 Level		CAN DO
9		受容的な態度と積極的な行動で、多様性社会の構築に向けた意識を他者へと広げていくことができる。 【広げる】
7		自分と異なる考えを持つ他者と協働しながら、ともに新たな価値観を創造することができる。 【自分のものとする】
5		自分と異なる背景を持つ他者に対し、その考えを認め、自らの意識の改善をすることができる。 【実践する】
3		他者を価値ある存在として尊重する意識持つことができる。 【気づく、選択する】
1		人はさまざまな考えを持っていることを理解できる。 【知る】

要素

③

相手意識

他者の考え方や価値観の違いを理解し、多様性を尊重することができる。

評価 Level		CAN DO
9		相手にわかりやすく伝える方法や態度を身につけ、それを他者と共有することができる。 【広げる】
7		相手にわかってほしいことがある場合、いつ、どのような場面で、どう伝えればよいか吟味することができる。 【自分のものとする】
5		意見を言う前に、相手がどのように感じるのかを予め想像して、言葉を選ぶことができる。 【実践する】
3		意見を言う際に、相手の反応からどのように感じているのかを意識することができる。 【気づく、選択する】
1		言葉は相手によって受け取りがさまざまであることを理解できる。 【知る】

マスターループリック（項目別評価表）

目指す資質能力

G

コミュニケーション力

要素

①	傾聴	
他者の言葉に耳を傾け、誠実に話を聴くことができる。		
	評価 Level	CAN DO
	10	他者の発言を自分が聴くことで相手がどのように変容するのか、感じとることができる。
評価 Level	TO DO	
9	他者の発言を自分が真剣に聴くことで、自分の気持ちを伝える。	【広げる】
	8	他者の発言を聴く時、自分の誠実さが相手にも伝わっていると実感できる。
7	他者の発言を共感しながら聴く。	【自分のものとする】
	6	他者の発言をその人の気持ちに寄り添いながら聴くことができる。
5	他者の発言をその人の気持ちを考えながら聴く。	【実践する】
	4	他者の発言をどのような態度で聴けばよいか、おおそ理解することができる。
3	他者の発言を傾きながら最後まで聴く。	【気づく、選択する】
	2	他者の発言を最後まで聴くことができる。
1	他者の発言を聴く。	【知る】

要素

②	対話・議論	
他者の話に理解を示しつつ対話を交わし、相互の理解を深めることができる。		
	評価 Level	CAN DO
	10	立場や年齢の異なる相手とも、身につけた対話のスキルを生かし建設的な意見の交換ができる。
評価 Level	TO DO	
9	さまざまな人との対話を通して、自分の考えをより深める。	
8	意見の異なる相手とも、自分の感情に左右されず対話することで互いの理解を深めることができる。	
7	自分と異なる意見であっても、その考え方を受け入れる。	
6	相手の意見を受けとめながら、自分の意見を述べることができる。	
5	話し合いの中で、自分の考えを相手に伝えようとする。相手の意見を真剣に受け止める。	
4	誰かとお互いの考えを話し合う時、自分の考えが相手に通じていると実感できる。	
3	話し合いの中で、自分の考えを相手に伝えようとする。	
2	誰かとお互いの考えを話し合うことができる。	
1	話し合いに参加する。	

【広げる】

【自分のものとする】

【実践する】

【気づく、選択する】

【知る】

要素

③

発表・発信

自分の意見や考えを的確にまとめ、他者に対して、正しくそれを理解してもらうための発信ができる。

評価 Level		CAN DO	
9	発表する際に、他者の意見も受け入れようとする態度を持つことで、自分の意見をより深める。	10	用意した発表・発信の内容だけでなく、その場の質疑応答においても自分の考えを正しく伝えることができる。
			【広げる】
8		8	発表・発信する体験を重ねながら、他者に対して正しくそれを理解してもらうための改善を図ることができる。
			【自分のものとする】
7	うまくいかなかった発表を自己分析し、改善を図る。	6	発表・発信した体験をもとに、どのように伝えればよいか自分なりの工夫を考えることができる。
			【実践する】
5	人前で自分の考えを発表するとき、伝えたいことを事前に準備する。	4	人前で自分の考えを発表・発信する時、伝えたいことをどのようにまとめればよいか考えることができる。
			【気づく、選択する】
3	人前で発表することで、自分の考えを相手に伝える。	2	人前で自分の考えを発表したり、発信したりすることができる。
			【知る】
1	人前で発表する。		

マスターループリック（項目別評価表）

目指す資質能力

H

チームワーク

要素	
①	目的意識の共有 他者との協働の場面において、その目的を共有しつつ、事に当たることができる。
評価 Level	CAN DO
10	チーム(集団)のこれまでの成果を活かし、発展的な次の目標を設定できる。
9	チーム(集団)の目標が達成されたあと、発展的な次の目標を設定しようとする。 【広げる】
8	チーム(集団)の目標達成に向け、主体性や積極性を発揮することができる。
7	チーム(集団)の目標に応じた自分の役割を理解し、積極的に意見を出そうとする。 【自分のものとする】
6	チーム(集団)の目標達成に向け、適切に行動することができる。
5	チーム(集団)の目標達成に向け、適切な行動をしようとする。 【実践する】
4	チーム(集団)の目標について、その意義を理解できる。
3	チーム(集団)が目指す目標について、なぜそれを目指すのか、意義を理解しようとする。 【気づく、選択する】
2	チーム(集団)が目指す目標を知っている。
1	チーム(集団)が目指す目標をつくろうとする。 【知る】

要素	
②	リーダーシップ 他者との協働において、的確な場面で自分がリーダーとなり集団をまとめることができる。
評価 Level	CAN DO
10	先進的な考えを示しながら、活動をマネジメントし、チーム(集団)を牽引できる。
9	メンバーを気遣いながら、活動のマネジメントを実行し、チーム(集団)を牽引する。 【広げる】
8	チーム(集団)の目標達成に向け、問題点を改善する体制を作り、実践することができる。
7	チーム(集団)の目標達成に向け、問題点を改善する体制を作る。 【自分のものとする】
6	チーム(集団)の目標達成に向け、改善のための問題点を示すことができる。
5	チーム(集団)の目標達成に向け、現段階の状況を把握し、問題点を探る。 【実践する】
4	チーム(集団)の目標を達成するために構築されたプロセスを見通すことができる。
3	チーム(集団)の目標を達成するためのプロセスを構築しようとする。 【気づく、選択する】
2	チーム(集団)の代表として実行すべき仕事ができる。
1	チーム(集団)が目指すものを理解し、その代表として実行すべき仕事を設定しようとする。 【知る】

要素	
③	フォロワーシップ 他者との協働において、適切な場面では他のリーダーの統率のもと強調した態度が取れる。
評価 Level	CAN DO
10	チーム(集団)の協働が確実になされているか常に確認し、うまくいかない部分を適切にフォローできる。
9	チーム(集団)の協働が確実になされているかを常に複数の視点から確認しようとする。 【広げる】
8	チーム(集団)の目標達成のため建設的な意見を出し、積極的にリーダーを支援することができる。
7	チーム(集団)の目標達成に向け、積極的かつ建設的にリーダーを支援しようとする。 【自分のものとする】
6	チーム(集団)の目標達成のため、リーダーに従って改善に努めることができる。
5	チーム(集団)の目標達成に向け、リーダーに従って改善に努めようとする。 【実践する】
4	チーム(集団)において求められる自分の役割を理解できる。
3	チーム(集団)において求められる自分の役割を理解しようとする。 【気づく、選択する】
2	チーム(集団)が目指す目標をメンバーと共有できる。
1	チーム(集団)が目指す目標をメンバーと共有しようとする。 【知る】